

第 2 回『大学受験志望校選定に関するアンケート』 <志願者・保護者 計 3,038 名 回答>

- 受験大学数は 8 割以上が「3 校以上」、関東地方では約半数が「5 校以上」
- 保護者のイベント参加率が急増。7 割近くが第 1 志望校のイベントに参加

受験料支払いやネット出願サービスを提供する株式会社オプト・ジャパン(本社:東京都新宿区、代表取締役 柳田 謙治)は、2014 年度大学入試の志願者・保護者を対象とした、「大学受験志望校選定に関するアンケート」を実施しました。当社が提供する「E-支払いサービス」※利用時に実施し、志願者 1,305 名、保護者 1,733 名、合計 3,038 名から回答を得ました。第 2 回となる本年度アンケートでは新たに、「受験大学数」や「オンライン学習サービス」の利用状況なども調査いたしました。

※「E-支払いサービス」とは

大学・短大、大学院、附属学校、小・中・高校、専門学校等の受験料(入学検定料・入学選考料)を、クレジットカードや全国約 44,000 店舗のコンビニエンスストア等を利用して、24 時間 365 日、いつでも支払い・申込みができるサービスです。銀行窓口の営業時間外でも支払いができる点や受験者・保護者がそれぞれのニーズに合った支払い方法を選択できる点などを評価いただいております。

2014 年度入試(2014 年 4 月入学)現在、導入校は 227 校。2014 年度の利用件数は約 30 万件。

【アンケート調査概要】

実施期間 : 2013 年 12 月 26 日～2014 年 2 月 16 日

調査方法 : サイト内で受験料支払い手続き完了後、任意で回答

調査対象者 : 「E-支払いサービス」利用者(志願者・保護者)

有効回答数 : 志願者 1,305 名、保護者 1,733 名、合計 3,038 名

【ポイント】**■受験大学数は 8 割以上が「3 校以上」。関東地方では、約半数が「5 校以上」と回答 (Q1)**

⇒全体では、「5 校以上」が 46.0%、「4 校」が 20.8%、「3 校」が 19.1%となり、8 割以上の志願者が 3 校以上受験していることがわかりました。地方別でみると、半数以上が「5 校以上」と回答したのは関東のみ(55.9%)で、地方によって差が出ました。

■第 1 志望校の決め手は「教育内容の充実」や「設備・雰囲気」(Q2)

⇒志願者、保護者ともに、1 位「教育内容が充実している」、2 位「学校の設備・雰囲気がよい」、3 位「知名度が高い」でした。志願者と保護者で最も差が大きかったのは、「ブランドへの憧れ」です。志願者が 31.7%なのに対して、保護者は 18.5%にとどまり、志願者は保護者に比べ、大学へのブランド意識が高いことがうかがえます。

■志望校選定の相談相手 1 位は 男子志願者「誰にも相談していない(21.4%)」、女子志願者「高校の先生(25.9%)」(Q3)

⇒男女別に見ると、男子志願者は「誰にも相談していない」が 21.4%と最も多い結果です。女子志願者は「高校の先生」が 25.9%、次いで「母親」が 23.9%となりましたが、男子志願者が「母親」と回答した割合は 14.0%にとどまり、男女で差が出ました。また「友人・知人」においては、男子志願者が 8.3%、女子志願者が 2.2%となり、男女で相談相手が異なることがわかりました。

■保護者のイベント参加率が急増。7 割近くが第 1 志望校のイベントに参加 (Q7)

⇒志願者・保護者合計でみると、「参加していない」は 34.7%にとどまり、回答者の 7 割近くがオープンキャンパスなどのイベントに参加しているという結果となりました。2013 年度の結果と比較すると、「参加していない」と回答した保護者が昨年度は 56.4%だったのに対して、2014 年度は 34.4%となり保護者のイベント参加率が急増していることがわかりました。

■半数以上の志願者がオンライン学習サービスを利用 (Q8)

⇒志願者全体では、「予備校のインターネット教材」が 24.6%、「その他インターネット教材」が 46.4%、「利用していない」が 40.5%となり、半数以上の志願者がオンライン学習を利用したことがある結果となりました。また、オンライン学習サービスを利用している志願者全体の 11.5%は、「予備校のインターネット教材」と「その他インターネット教材」を併用していることもわかりました。

※調査の詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

【会社概要】

社 名 : 株式会社 オプト・ジャパン

設 立 : 1990 年 5 月 11 日

代 表 者 : 代表取締役 柳田 謙治

U R L : <http://www.optjapan.com/>

資 本 金 : 8,612 万円 (2014 年 5 月現在)

従 業 員 数 : 18 名 (2014 年 5 月時点)

所 在 地 : 東京都新宿区西五軒町 1-1 西五軒町ビル [TEL] 03-5261-9791 [FAX] 03-5261-9792

事業内容 : 入学検定料収納代行に関するシステム開発・運用等 主要株主 : 三菱総研 DCS 株式会社 (<http://www.dcs.co.jp/>)

【本件に関するお問合せ先】

株式会社オプト・ジャパン

広報担当: 西出(ニシデ)

TEL: 03-5261-9791

広報代行: 株式会社アネティ

担 当: 真壁(マカベ)・岡崎

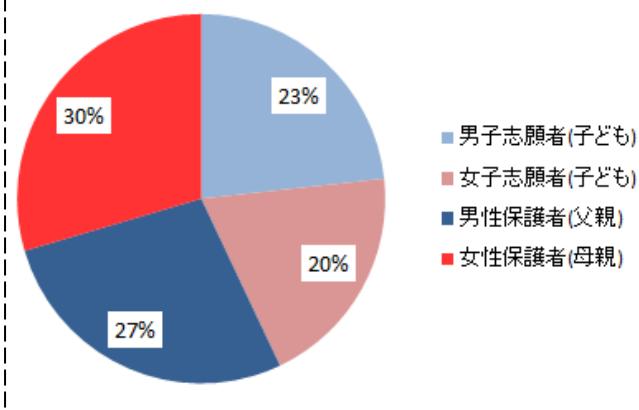
TEL: 03-5475-3488

【 アンケート調査 集計結果 (抜粋) 】

※比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。

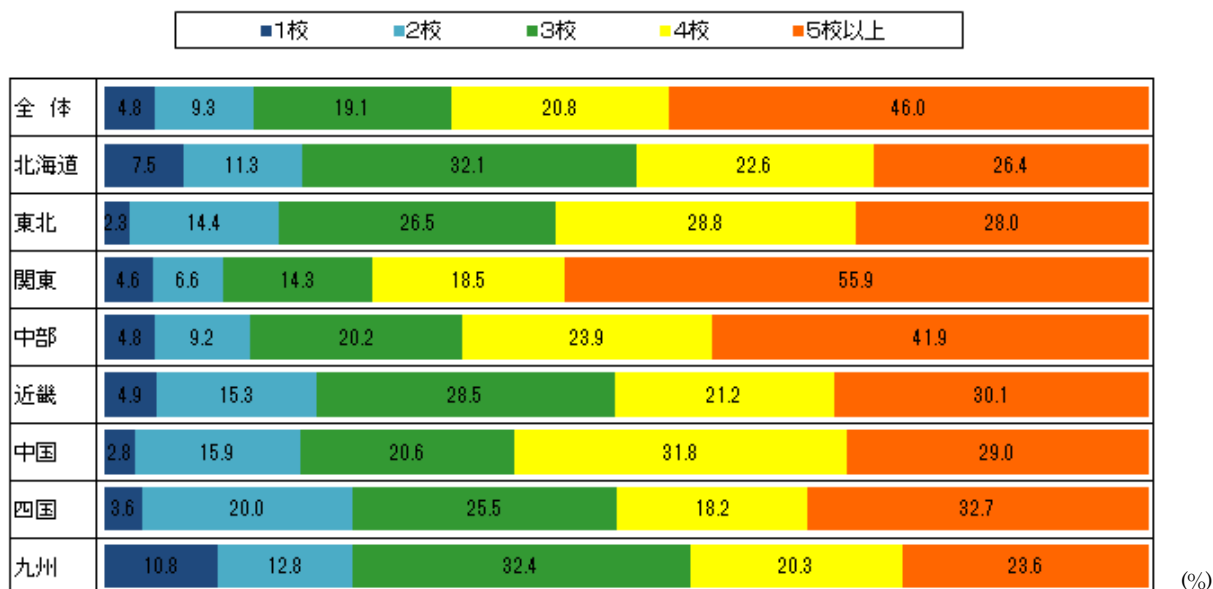
そのため、単数回答においては、合計が100%にならない場合があります。

● 回答者の属性



● 受験校数

Q1. 何校受験しますか(予定を含む)? 保護者の方は、わかる範囲でお答えください。(単数回答)



・全体では、「5校以上」が46.0%、「4校」が20.8%、「3校」が19.1%となり、8割以上の志願者が3校以上受験していることがわかりました。

・地方別で比べてみると、「5校以上」が5割を超えたのは関東のみ(55.9%)で、地方によって受験校数に差が出ました。

・関東は大学の多さやアクセスのしやすさなどから、特に受験校数が多い傾向にあると思われます。

・地方においては、地元志向の高まりや経済的事情により、地方から都市部へといった出願の動きが鈍く、受験校数が少ない傾向にあります。また地方は、地元の国公立大学を目指す志願者も多く併願受験がしづらいことや、もともと大学数が少ないことも要因のひとつと考えられます。

・当社が2011年に実施した「大学受験料決済サービスに関する調査※」では、「5校以上」が24.3%、「4校」が11.2%、「3校」が14.8%という結果でした。調査方法・対象が異なるものの、3年前の調査より受験校数が増えている傾向がみられます。

・2015年度入試からは新学習指導要領に基づく入試に移行されるため、「現役合格したい」「浪人できない」と考える志願者が多く、「かけ込み」での出願・併願が、受験校数増に起因しているものと思われます。

※「大学受験料決済サービスに関する調査」概要

実 施 期 間: 2011年12月9日～12月13日

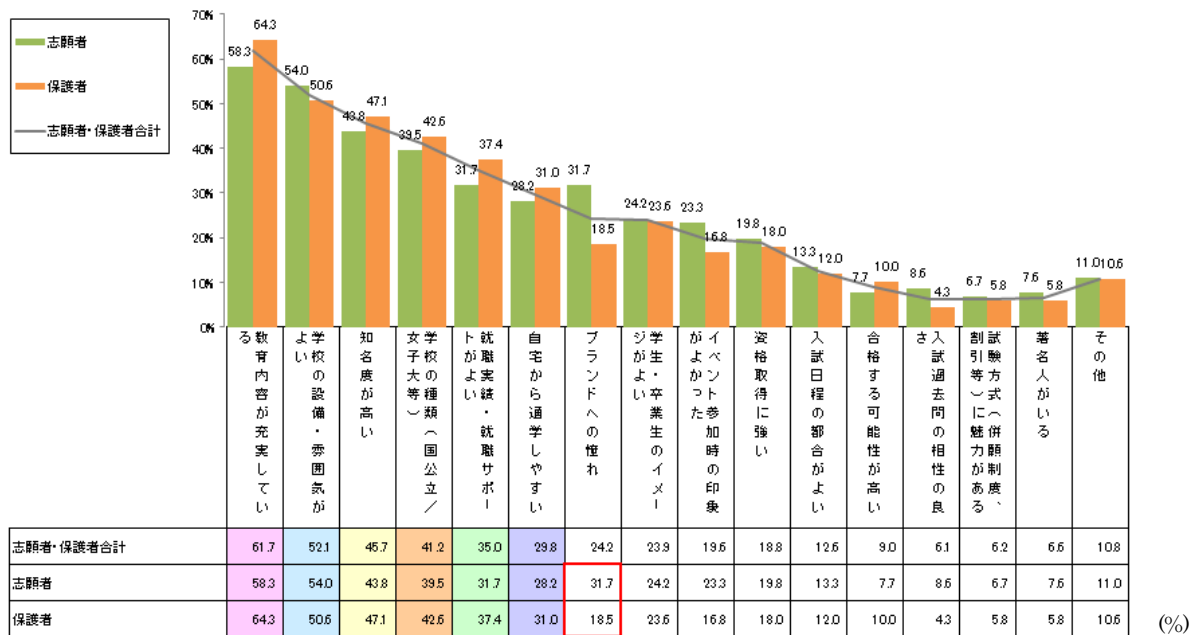
調 査 方 法: インターネット調査

調 査 対 象 者: 大学受験の受験料を自分で支払ったことがある高校生・大学生・短大生 200名

子どもの大学受験の受験料を自分で支払ったことがある保護者 400名

●志望校選定の決め手

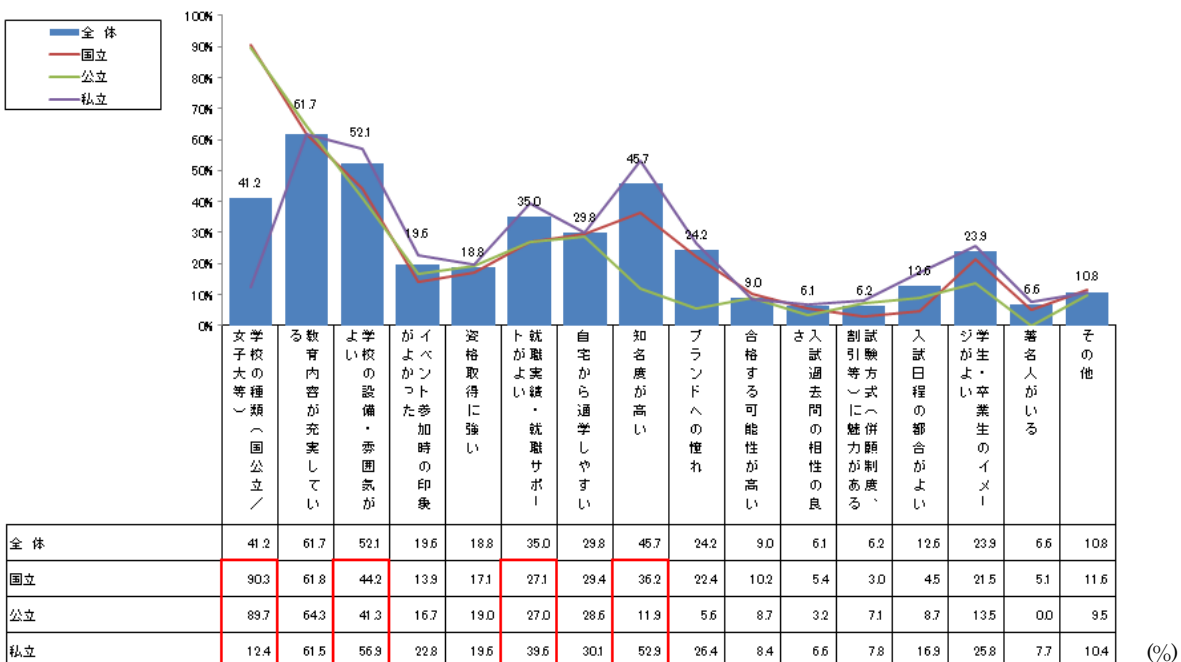
Q2. 第1志望校の決め手は何ですか？(複数回答)



・志願者、保護者ともに、1位「教育内容が充実している」、2位「学校の設備・雰囲気が高い」、3位「知名度が高い」となりました。知名度の高さを重視しつつも、大学の教育力・人材育成力といった学びの面での総合力をしっかりとチェックしようという意識がうかがえます。

・志願者と保護者で最も差が大きかったのは、「ブランドへの憧れ」です。志願者が31.7%なのに対して、保護者は18.5%にとどまり、志願者は保護者に比べ、大学へのブランド意識が高いことがうかがえます。その一方で、「知名度が高い」は志願者が43.8%、保護者が47.1%となりました。

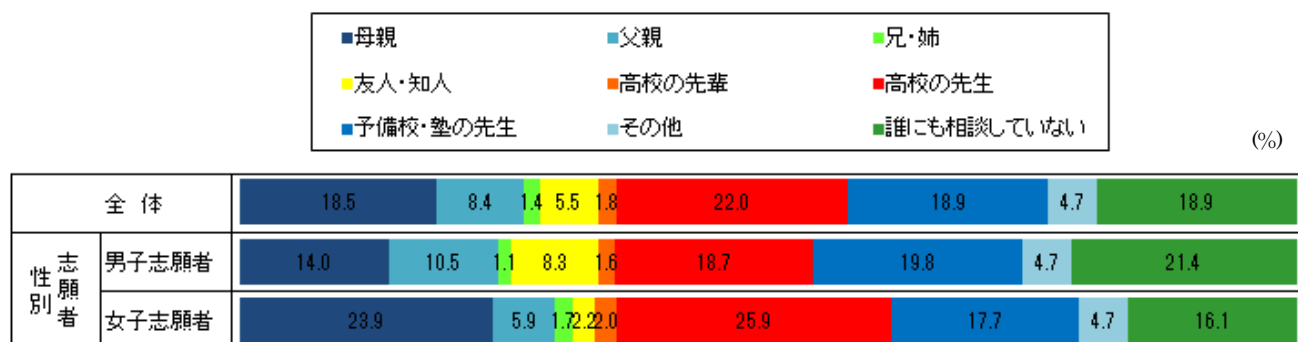
・上位3項目は2013年度のアンケート結果と同様でした。2013年度では「就職実績・サポートがよい」が4位でしたが、2014年度では5位となりました。



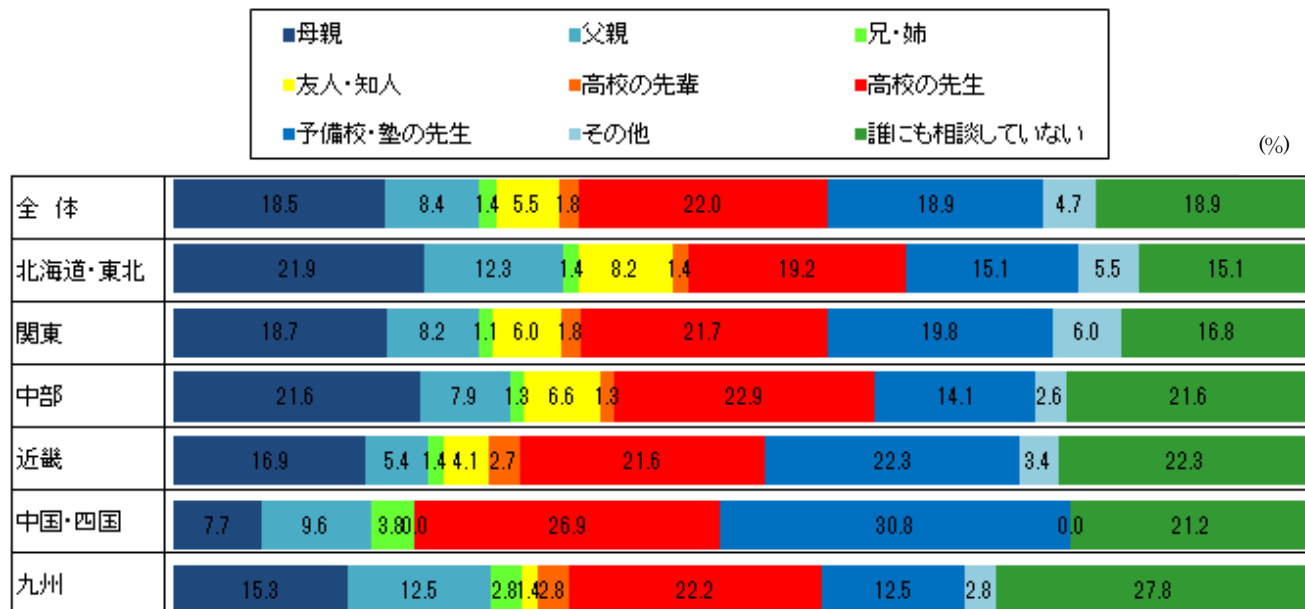
・第1志望校の区分(国立・公立・私立)別にみると、国立・公立では1位「学校の種類(国公立/女子大等)」、2位「教育内容が充実している」、3位「学校の設備・雰囲気がよい」となり、私立では1位「教育内容が充実している」、2位「学校の設備・雰囲気がよい」、3位「知名度が高い」となりました。志望する大学の区分により、回答が異なりました。

・また、「就職実績・就職サポートがよい」は、国立27.1%、公立27.0%、私立39.6%となり、国公立と私立で10%以上差がありました。私立を第1志望とする志願者・保護者は、よい就職ができるかを重視していることがうかがえます。

Q3. 今年受験する大学を決定する際に、誰の意見を一番参考にしましたか？(単数回答)※志願者のみ回答

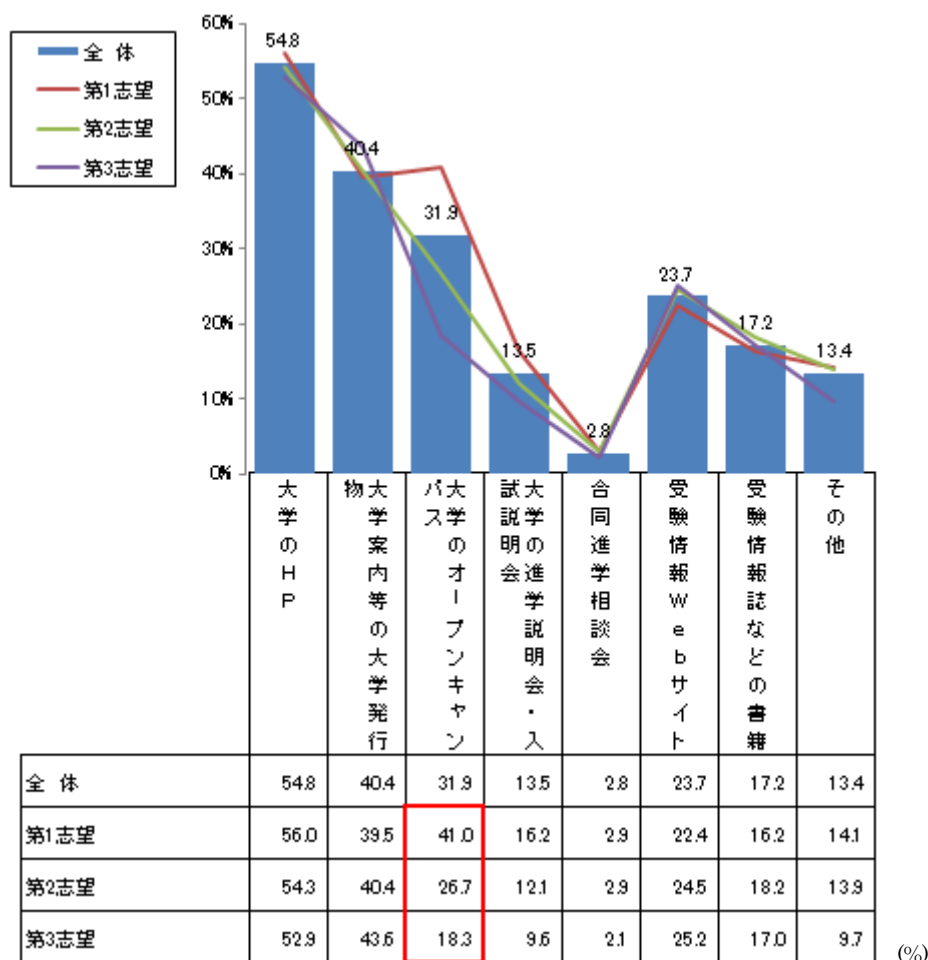


- ・全体で見ると「高校の先生」が22.0%、次いで「予備校・塾の先生」、「誰にも相談していない」が18.9%となりました。
- ・男女別に見ると、男子志願者は「誰にも相談していない」が21.4%と最も多い結果です。女子志願者は「高校の先生」が25.9%、次いで「母親」が23.9%となりましたが、男子志願者が「母親」と回答した割合は14.0%にとどまり、男女で差が出ました。また「友人・知人」においては、男子志願者が8.3%、女子志願者が2.2%となり、男女で相談相手が異なることがわかりました。
- ・2013年度のアンケート結果と比べると、最も多い回答は、男子志願者は「誰にも相談していない」、女子志願者は「高校の先生」で、ともに変化はありませんでした。
- ・父親、母親についてみると、昨年度は、男子志願者は母親が12.1%、父親が13.2%、女子志願者は母親が23.0%、父親は10.3%で、それぞれ同性の親の意見を参考にしている傾向にありました。しかしながら、2014年度は男女ともに母親の意見をより参考にしていることがわかりました。
- ・また、男女ともに「予備校・塾の先生」の割合が増加しました。これは、現役志望の強い志願者が受験のやり方・日程の組み方などを「予備校・塾の先生」に相談していることがうかがえます。旧課程最後の入試となったこともあり、具体的なプランニングを専門家に相談したいという心理が、具体的な行動となってあらわれた結果だと思われます。



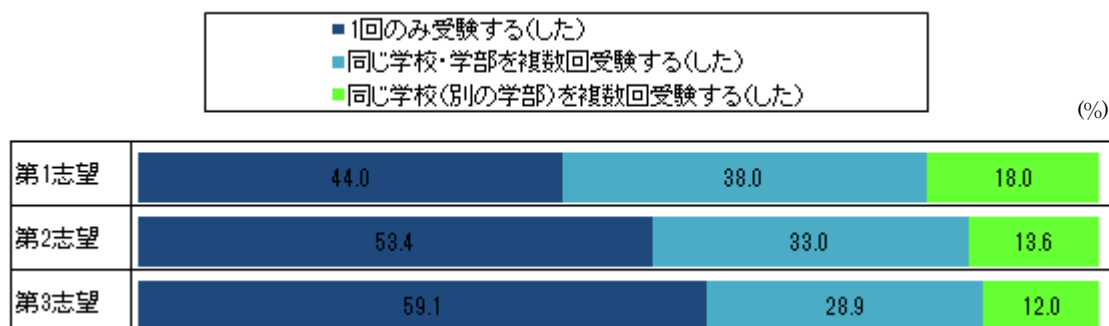
- ・地方別に比べてみると、全体とは大きく異なる結果がみられました。例えば、「母親」は全体では18.5%なのに対し、中国・四国では7.7%とどまりました。「誰にも相談していない」は、全体では18.9%なのに対し、九州では27.8%でした。
- ・「予備校・塾の先生」は、全体では18.9%でしたが、最も割合が高かった中国・四国では30.8%、最も割合が低かった九州では12.5%となり、倍以上の開きがあります。近畿、中国・四国では、高校の先生や予備校・塾の先生による受験指導体制が志願者に浸透している様子がうかがえます。

Q4 出願校を決定する際に、以下のうち、参考となった情報(偏差値以外の情報)の入手先を 3 つ以内で選択してください。
(複数回答)



- ・全体でみると「大学のHP」54.8%、「大学案内等の大学発行物」40.4%、「大学のオープンキャンパス」31.9%となりました。
- ・志望順位ごとの結果を比べると、全体的に大きな差は見られませんでした。が、「大学のオープンキャンパス」は、第1志望は41.0%、第2志望は26.7%、第3志望は18.3%となり、志望順位が高いほど参考にしていることがわかりました。
- ・また「受験情報Webサイト」は、第1志望は22.4%、第2志望は24.5%、第3志望は25.2%となり、志望順位が低くなるほど参考にしていることがわかりました。第1志望は、実際にキャンパスに足を運び、自分の目や耳で確かめることも重視する一方、第2志望以下は大学案内やWebからの情報に頼る傾向が強いことがわかりました。

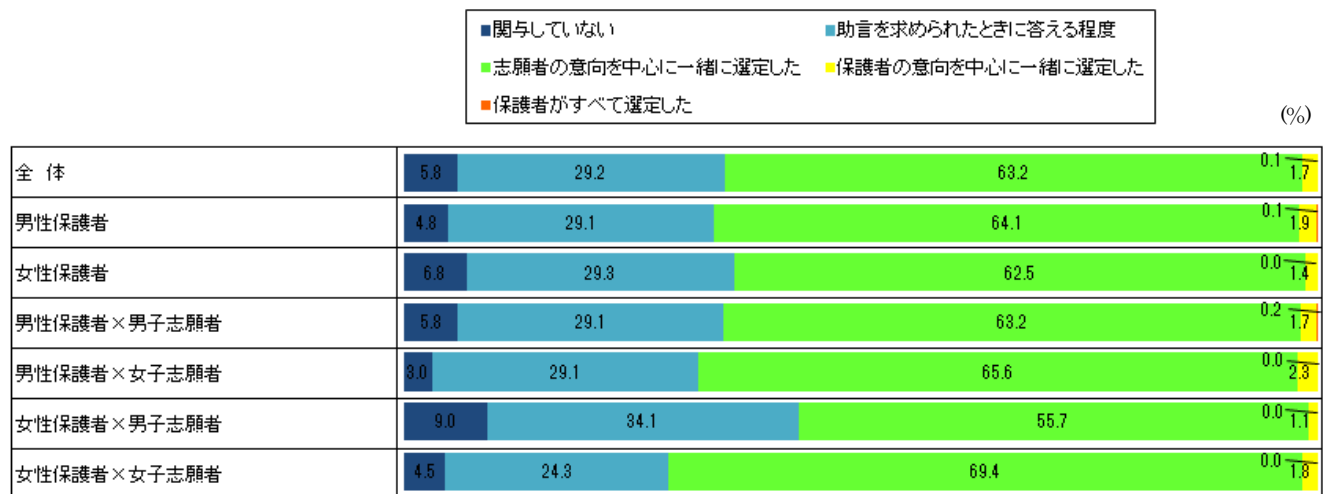
Q5. 今年度の受験で、出願校を複数回受験しますか(しましたか)?



- ・志望順位が高いほど、同じ学校・同じ学部を複数回受験する傾向にあり、第1志望校への憧れやブランド志向の強さがうかがえる結果となりました。

● 受験への親の関与

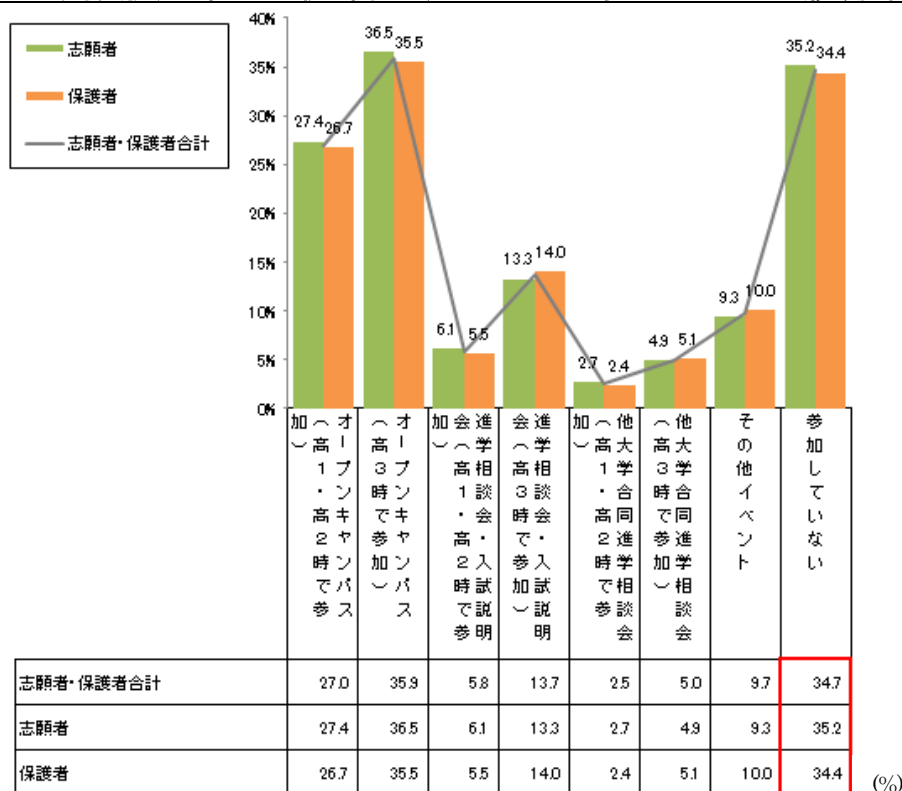
Q6. 志望校の選定について、どの程度関与しましたか？(単数回答)※保護者のみ回答



- ・男性保護者(父親)、女性保護者(母親)ともに、「志願者の意向を中心に一緒に選定した」が6割以上(男性保護者64.1%、女性保護者62.5%)でした。
- ・保護者、志願者の性別ごとの組み合わせでみると、女子志願者においては男性保護者、女性保護者ともに志望校選定に関与している傾向にあります。
- ・その一方で、女性保護者×男子志願者の組み合わせでは、「関与していない」が9.0%、「助言を求められたときに応える程度」が34.1%となり、女性保護者×女子志願者よりも関与する割合が低い結果となりました。女性保護者は子どもの性別によって関与の仕方が異なることがうかがえます。
- ・2013年度のアンケート結果でも「志願者の意向を中心に一緒に選定した」が6割以上で、志望校選定における親の関与の割合は、あまり変化がないことがわかりました。
- ・近年の大学進学においては、多数の保護者が志願者(子ども)の進学先について、積極的に関与していることがうかがえます。

● 大学イベントの参加

Q7. 今年受験する第1志望校に関して、どのイベントに参加しましたか？(複数回答)



・志願者・保護者合計でみると、「参加していない」は34.7%にとどまり、回答者の7割近くがイベントに参加しているという結果となりました。

・参加したイベントをみると志願者、保護者ともに、1位が「オープンキャンパス(高3時で参加)」、2位が「オープンキャンパス(高1・高2時で参加)」、3位が「進学相談会・入試説明会(高3時で参加)」となりました。

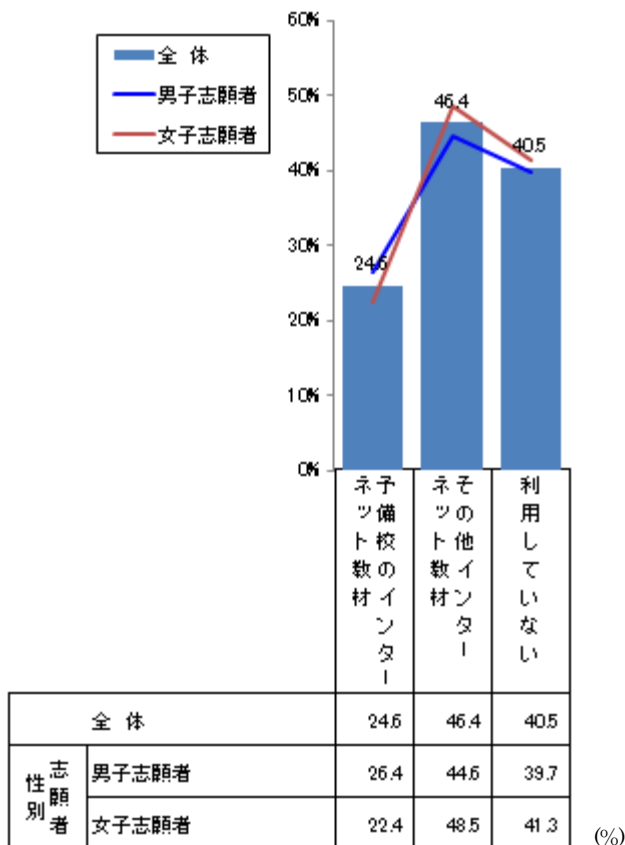
・オープンキャンパスへの参加割合の高さから、これまで得た情報を体感として確認してみようという意識がうかがえます。高1・高2時でのイベント参加を勧める高校現場での指導もあり、志望校選択は早期化する傾向にありますが、まだまだ高3時での参加者も多数いることがわかります。

・保護者の回答において、2013年度のアンケート結果と比較すると、「参加していない」と回答した割合が昨年度は56.4%だったのに対して、2014年度は34.4%となり保護者のイベント参加率が急増していることがわかりました。特に、オープンキャンパスは、志願者(子ども)が高1・高2時、高3時ともに、その保護者の参加が10%以上増加しており、積極的に大学を訪れていることがうかがえます。

・その一方で、Q2の「第1志望校の決め手は何ですか？(複数回答)」では、志願者・保護者合計で「イベント参加時の印象がよかった」は19.6%にとどまり、高いイベント参加率とのギャップがみられました。

● オンライン学習利用状況

Q8. インターネットなどのオンライン学習で利用したことがあるものを選択してください。(複数回答) ※志願者のみ回答



- ・志願者全体では、「予備校のインターネット教材」が 24.6%、「その他インターネット教材」が 46.4%、「利用していない」が 40.5%となり、半数以上の志願者がオンライン学習を利用したことがある結果となりました。
- ・また、オンライン学習サービスを利用している志願者全体の 11.5%は、「予備校のインターネット教材」と「その他インターネット教材」を併用していることもわかりました。

● 総 括

本アンケート結果から見てくる志願者・保護者の動向について、進学情報誌「逆引き大学辞典」の編集長で、生活総合情報サイト All About(オールアバウト)にて大学受験ガイドも務める大坪 譲氏に総括していただきました。

ーアンケート結果から見てくる志願者動向ー



・学科から志望大学が探せる
「逆引き大学辞典」編集長
・All About 大学受験テーマ
担当ガイド
大坪 譲 氏

今年の志願者動向も、「安全志向」、「地元志向」という、ここ数年の大きな流れを継続したのとなりました。2014 年度入試は旧課程での最後の入試であったことから、現役での大学進学を優先する「安全志向」がより強く働いた結果、いわゆるかけ込みでの受験校数増の傾向が見られます。その他、私立大学については入試方式の多様化やネット出願による割引制度導入など、受験チャンスやメリットが拡大していることも受験校数増に寄与しているものと思われます。

また志望校選択の際、保護者を含めた志願者層は、多様なツールを通して情報を得ているようです。特に第 1 志望校については、大学案内や Web サイトなど比較的手軽に入手できる情報だけでなく、実際にオープンキャンパスに足を運び、自分の目や耳で体感するということも重視しています。昔と違って情報過多の時代だからこそ、大学を体験・体感して比較・検討してみることが重要なポイントとなっています。

第 1 志望校の決め手としても、知名度やブランドが重視されつつも、教育内容や設備・雰囲気など、学びの場としての充実具合がより大きな決め手となっています。学生が入学してから卒業するまでの間、どれだけ社会的に貢献できる人材に成長させられるかという、大学の総合的な教育力・人材育成力に大きな注目が集まっているといえるでしょう。